

「水防災意識社会 再構築ビジョン」
に基づく取組について

水防災意識社会 再構築ビジョン

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「水防災意識社会 再構築ビジョン」として、全ての直轄河川とその沿川市町村（109水系、730市町村）において、平成32年度目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。

<ソフト対策>

・住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へ転換し、平成28年出水期までを目途に重点的に実施。

<ハード対策>

・「洪水を安全に流すためのハード対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目途に実施。

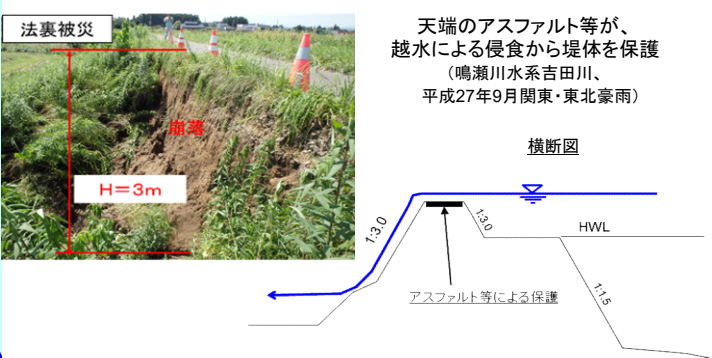
主な対策

各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。

<危機管理型ハード対策>

- 越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する
対策の推進
いわゆる粘り強い構造の堤防の整備

<被害軽減を図るための堤防構造の工夫(対策例)>



<洪水を安全に流すためのハード対策>

- 優先的に整備が必要な区間において、堤防のかさ上げや浸透対策などを実施

<住民目線のソフト対策>

- 住民等の行動につながるリスク情報の周知
 - ・立ち退き避難が必要な家屋倒壊等氾濫想定区域等の公表
 - ・住民のとるべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良
 - ・不動産関連事業者への説明会の開催
- 事前の行動計画作成、訓練の促進
 - ・タイムラインの策定
- 避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供
 - ・水位計やライブカメラの設置
 - ・スマホ等によるプッシュ型の洪水予報等の提供



家屋倒壊等氾濫想定区域※

※ 河川堤防の決壊に伴う洪水氾濫により、木造家屋の倒壊のおそれがある区域

住民目線のソフト対策

○水害リスクの高い地域を中心に、スマートフォンを活用したプッシュ型の洪水予報の配信など、住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう住民目線のソフト対策に重点的に取り組む。

リスク情報の周知

○立ち退き避難が必要な家屋倒壊等氾濫想定区域等の公表
⇒平成28年出水期までに水害リスクの高い約70水系、平成29年出水期までに全109水系で公表



○住民のとるべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良
⇒「水害ハザードマップ検討委員会」にて意見を聴き、平成28年4月中を目途に水害ハザードマップの手引きを作成

○不動産関連事業者への説明会の実施
⇒水害リスクを認識した不動産売買の普及等による、水害リスクを踏まえた土地利用の促進

事前の行動計画、訓練

○避難に着目したタイムラインの策定
○首長も参加するロールプレイング形式の訓練



⇒平成28年出水期までに水害リスクの高い約400市町村平成32年度までに全730市町村で策定

避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供

スマホ等で取得



洪水予報等の情報をプッシュ型で配信



自分のいる場所の近傍の情報



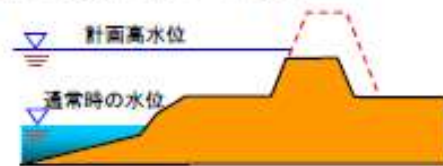
⇒平成28年夏頃までに洪水に対しリスクが高い区間において水位計やライブカメラを設置
・平成28年出水期からスマートフォン等によるプッシュ型の洪水予報等の配信を順次実施

洪水を安全に流すためのハード対策

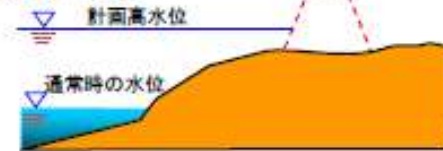
○流下能力が著しく不足している、あるいは漏水の実績があるなど、優先的に整備が必要な区間約1,200kmについて、平成32年度を目途に堤防のかさ上げや浸透対策などの対策を実施。

【未完成の堤防】

○堤防の断面が不足

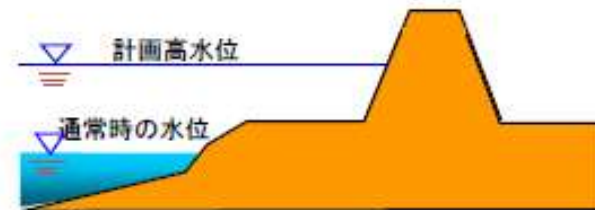


○堤防がない



【完成された堤防】

○堤防の高さ・幅ともに計画上の断面を確保

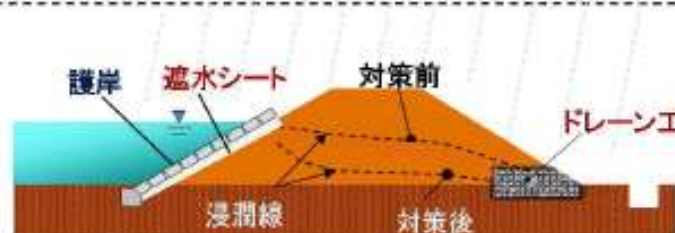


堤防の
かさ上げ

<浸透や侵食に対する対策工法>

➢ドレーン工、護岸や遮水シートの設置等、浸透や侵食に対する安全性を確保するための対策を実施

浸透・侵食
対策



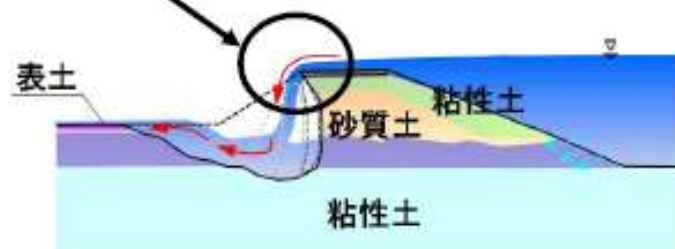
ドレーン工、護岸や遮水シートの設置例

危機管理型ハード対策、いわゆる粘り強い構造の堤防等の整備

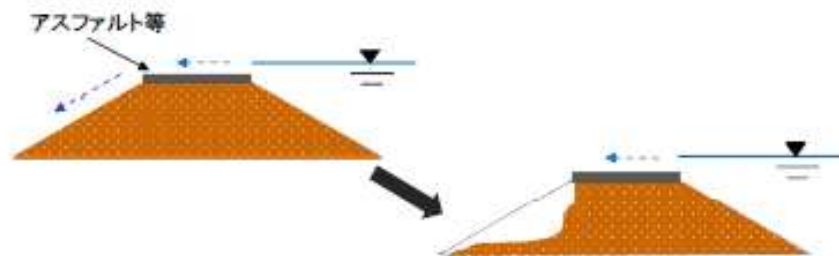
○ 氾濫リスクが高いにも関わらず、当面の間、上下流バランスの観点から堤防整備に至らない区間など約1,800kmについて、平成32年度を目途に粘り強い構造の堤防など危機管理型のハード対策を実施。

堤防天端の保護

- 堤防天端をアスファルト等で保護し、法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす

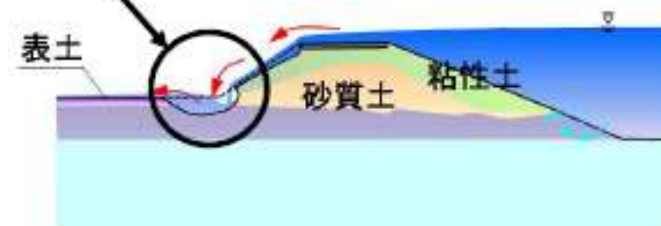


堤防天端をアスファルト等で保護した堤防では、ある程度の時間、アスファルト等が残っている。

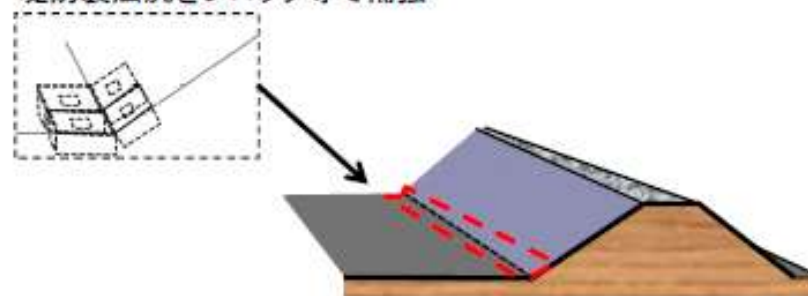


堤防裏法尻の補強

- 裏法尻をブロック等で補強し、深掘れの進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



堤防裏法尻をブロック等で補強



「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく 吉井川・旭川の減災に係る取組方針

平成28年10月27日

吉井川・旭川水系大規模氾濫時の減災対策協議会

〔 岡山市・備前市・瀬戸内市・赤磐市・和気町・岡山県
岡山地方气象台・国土交通省中国地方整備局 〕

「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく 高梁川の減災に係る取組方針

平成28年10月27日

高梁川水系大規模氾濫時の減災対策協議会

〔 倉敷市・総社市・早島町・岡山県
岡山地方气象台・国土交通省中国地方整備局 〕

- 1.はじめに
- 2.本協議会の構成員
- 3.吉井川・旭川の概要と主な課題
- 4.現在の取組状況
- 5.減災のための目標
- 6.概ね5年で実施する取組
- 7.フォローアップ

5.減災のための目標

■5年間で達成すべき「目標」

氾濫水が貯留する上流域や、ゼロメートル地帯を抱え、広範囲に広がる下流域の岡山平野における氾濫特性などをふまえた**実効性のある防災・減災対策を推進し、「逃げ遅れゼロ」「社会経済被害の最小化」**を目指す。



■目標達成に向けた「3本柱の取組」

上記目標の達成に向け、洪水を河川内で安全に流すハード対策に加え、吉井川及び旭川において以下の項目を3本柱とした取組を実施する。

- ① 迫り来る危機を認識した的確な**避難行動のための取組**
- ② 氾濫特性に応じた効果的な**水防活動**
- ③ 長期化する浸水を一日も早く解消するための**排水対策**

6.概ね5年で実施する取組

6.1.ハード対策の主な取組

■洪水氾濫を未然に防ぐ対策

- パイピング対策
- 流下能力対策

■危機管理型ハード対策

- 天端の保護

■避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

- 雨量・水位等の観測データ及び洪水時の状況を把握・伝達するための基盤の整備
- 防災行政無線の改良、防災ラジオ等の配布
- 避難活動や水防活動を支援するための水防資機材等の配備
- 円滑な避難活動や水防活動を支援するため、簡易水位計や量水標、CCTVカメラの設置

6.2.ソフト対策の主な取組

①迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

■広域避難を考慮したハザードマップの作成・周知等

- 想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図、氾濫シミュレーション
- 広域避難計画の策定
- 避難場所等の有効性の検証や広域避難を考慮したハザードマップの作成・周知、及びまるごとまちごとハザードマップ整備
- 要配慮者利用施設の避難計画の作成支援及び訓練の促進
- ハザードマップポータルサイトを活用した周知サポート、地図情報の活用

■避難勧告の発令に着目したタイムラインの作成

- 避難勧告の発令に着目したタイムラインの作成及び精度向上
- タイムラインに基づく首長等も参加した実践的な訓練
- 警報等に関連して「危険度を色分けした時系列」や「警報級の現象となる可能性」の情報提供開始及びメッシュ情報の充実化

■防災教育や防災知識の普及

- 水防災に関する説明会、出前講座を活用した講習会の開催
- 教員を対象とした講習会の実施、小学生を対象とした防災教育の実施
- スマートフォン等へのプッシュ型洪水情報等の情報発信
- 水位計やライブカメラの情報をリアルタイムで提供
- 効果的な「水防災意識社会」再構築に役立つ広報や資料の作成

②氾濫特性に応じた効果的な水防活動

■より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化

- 水防団や地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検
- 関係機関が連携した実働水防訓練の実施
- 水防活動の担い手となる水防団員の募集及び水防協力団体の募集・指定を促進
- 地域の建設業者による水防支援体制の検討・構築

③長期化する浸水を一日も早く解消するための排水対策

■排水計画(案)の作成および排水訓練の実施

- 排水機場・樋門・水門等の情報共有を行い、大規模水害を想定した排水計画を検討及び訓練の実施

7. フォローアップ

今後、想定最大規模の洪水に対する取組方針については、改めて検討を行い、取組方針の見直しを実施する。

各機関の取組内容については、必要に応じて、防災業務計画や地域防災計画等に反映することによって責任を明確にし、組織的、計画的、継続的に取り組むこととする。

年 度	内 容
平成32年度	<p>防災・減災社会の構築</p> <p>進捗見直し 情報共有 取組方針の見直し</p> <p>← 提案 →</p> <p>← 報告 →</p> <p>進捗報告 習熟状況報告 問題点提示</p> <p>目標達成の取組</p>
平成31年度	
平成30年度	
平成29年度	
平成28年度	
	<p>目標設定・取組方針決定</p>
	<p>減災対策協議会の開催 (毎年出水期前)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗確認 取組方針の見直し 習熟・改善等の継続的なフォローアップ